

LCAへの取り組み

LCAの活用

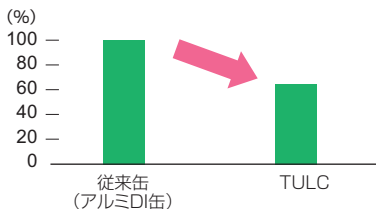
東洋製罐では製品の環境負荷を把握し、さらなる環境負荷低減のため、LCA(Life Cycle Assessment)を行っています。

LCAの歴史

LCAは1969年アメリカで行われたのが始まりで、東洋製罐では1970年代からLCAの研究が始まりました。1986年からは開発業務へのLCA活用を開始し、TULCなどの開発に活用しています。

TULCの開発は従来缶(DI缶)の製造工程での環境影響を詳細に調査して課題を見つけることから始まりました。そして、「樹脂ラミネート材」と「ドライ成形」の組み合わせで、環境負荷を大幅に低減することができました。

製缶工程でのエネルギー消費量削減率

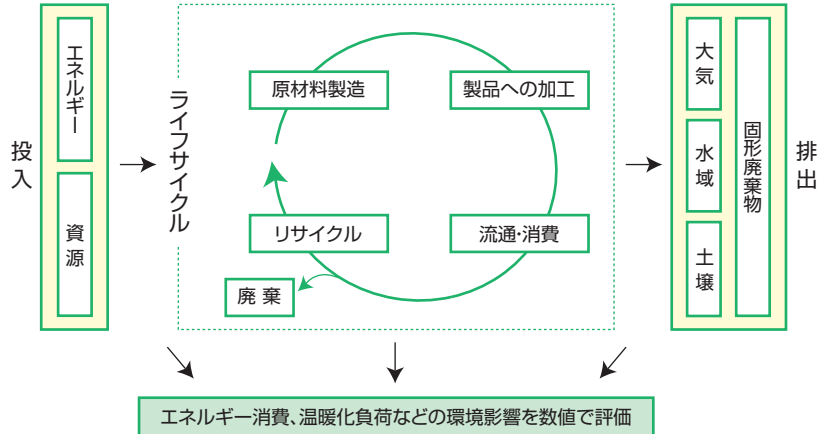


※LCA手法を用いて評価した結果から、製造工程のみを抜き出して表しています。

金属缶で初めてエコリーフ環境ラベルを取得

「エコリーフ環境ラベル」は製品の全ライフサイクルにわたる

ライフサイクルアセスメントの概念図



※LCAは製品に使われている資源の採掘、その資源からの原材料の製造、製品の製造、流通・消費、リサイクル・廃棄にわたる、製品の一生(ライフサイクル)にかかる環境影響を数値としてとらえる手法。

環境負荷をLCA手法で計算し、その結果をホームページなどで一般に公開するものです。計算結果は産業環境管理協会環境ラベルプログラムによる検証を受けます。開発段階からLCAを取り入れたTULCは、金属缶で初めてこのエコリーフを取得しました。現在までにTULCシリーズ製品22缶種で取得し、産業環境管理協会のホームページにて環境情報を公開しています。

公開HPアドレス
http://www.jemai.or.jp/ecoleaf/prodbycmp_companyobj68.cfm



LCAの取り組みの拡大

カーボンフットプリント制度への参加

カーボンフットプリントとは商品の一生で排出される温室効果

ガスをCO₂に換算して、その数値を商品に表示するものです。東洋製罐では経済産業省が2008年6月に立ち上げた「カーボンフットプリント制度の実用化・普及推進研究会」に参加し、2008年12月に行われたエコプロダクツ2008に製品サンプルを展示しました。今後も制度の普及に貢献できるよう取り組んでいきます。

グループでの取り組み

東洋製罐グループでは1997年度にLCA研究会を発足し、LCAの研究を行ってきました。2002年度にはLCA部会という名に変わり、現在ではグループ8社をメンバーとして活動しています。

さらなるLCAの適用拡大を目指し、グループで協力していきます。